

師走の候 宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部の皆様には益々ご清福の段、大慶に存じます。

平成27年も後一月余りを残すのみとなりましたが、今年は安保法制で集団的自衛権行使容認など、戦後70年を迎えた「日本」を変える大きな節目の年となったようです。

さて11月の私の自衛隊参加行事は23日に催行された「川南護国神社慰霊祭」のみでしたが、この慰霊祭についての古い紹介記事を同封致しますので、是非お目通し下さい。

私が嘗て勤務した習志野・第一空挺団と、宮崎・川南との浅からぬ因縁を、43年前当時は知る由も有りませんでした。何か感慨深いものを感じる次第です。

ところで、12月6日の日曜は皆様お待ちかねの新田原航空祭、明けて1月9日の土曜はえびの駐屯地賀詞交換会と、年末年始に掛けて自衛隊関連行事が予定されていますので、お時間の許す方はお誘い合わせの上でのご参加をお待ち申し上げます。

今月もまた、小川和久先生のメルマガからお許しを得て、転載致しますのでご一読賜れば幸いです。

・反対派は自衛官の「戦死」を心配するが…

11月20日号(11月10日発売)の『週刊朝日』の表紙に、「自衛官の『戦死』 補償・祭祀どうなるこれで遺族は納得できるのか」という見出しが躍りました。ギョッとされた方も少なくないと思います。

目次もまた刺激的で、「安保法制の議論で避けられた最大のタブー 南スーダン『駆けつけ』警護で現実に!? 自衛官の『戦死』 補償・祭祀どうなる これで遺族は納得できるのか」とあります。

集団的自衛権の行使容認が閣議決定され、平和安全保障法制が成立する過程で、気にならなかったのが反対派による「自衛官のリスクが高まる」「自衛官が戦死する」というプロパガンダです。

その狙いはただひとつ、肉親や親類縁者が犠牲になることを心配する世論を高め、安保法制を阻止しよう、成立後も廃止に追い込もうということです。

その効果は、それなりに現れていないわけではありません。

先日も、幹部自衛官のお母さんから「息子は大丈夫なんでしょうか」と真顔で尋ねられましたし、自衛官を志願する若者が減る傾向も出始めています。

この問題については、**地方のテレビの影響**は少なくないと思います。先日も**山形県**で隊友会のご婦人方の半分ほどが安保法制に反対、あるいは懸念を示したと聞きました。

この地域のテレビはNHK総合、NHKEテレ1、山形放送(日本テレビ系列)、山形テレビ(テレビ朝日系列)、TUY(TBS系列)、さくらんぼテレビ(フジテレビ系列)と東京などとあまり変わらない、テレビ東京系列がないだけというチャンネル数ですが、『サンデーモーニング』や『報道ステーション』のように**安保法制反対のトーンが強い番組が広く見られており**、同じ傾向は他に**情報収集や娯楽の選択肢が少ない地方**の自民党や自衛隊支持者にも現れています。

志願者が少なくなるのは、世の中の景気との関係で見なければならぬわけで、景気がよければ減るし、不況なら増えるということですから、それが**景気が減速している中で減る**ということになれば、やはり**プロパガンダの効果**が影響を及ぼしているとみなしなければならないでしょう。

安保法制によって国連平和維持活動(PKO)など**国際平和協力活動の任務が拡大され**、**自衛官のリスクが高まる**という議論に対しては、次のように**反論**し、自衛官の肉親や縁者にも安心してもらうように心がけてきました。

いわゆる「駆け付け警護」など**任務拡大によってリスクが高まる**というのは、その点だけを取り出せば事実です。しかし、**リスクが高まるかどうかは従来と比べるなど相対的に判断**しなければなりません。例えば2004年当時のイラク復興支援では、陸上自衛隊は自らを守るにも十分でない編成と装備で派遣され、自衛隊の安全はオランダ軍とオーストラリア軍に委ねる格好になりました。

しかし、**安保法制の成立によって編成・装備も一定程度は柔軟に取捨選択**できるようになり、それを支える法制度も整備されていますから、**任務の拡大によるリスクと向き合っても大丈夫**と言えるほどになっており、**相対的にはリスクは低減**しているのです。

国際平和協力活動に派遣される数百人規模の部隊から一人の殉職者も出さないように努めることは、**日本列島の防衛**といった本格的な戦闘に比べると**難しいことではない**のです。

そして、自衛官の「戦死」に対する関係者の**不安を煽り立てている反対派やメディア**には以下の点を問いたい。

不幸にして**日本が外国から攻められる状況**が生まれた場合、最初から防衛戦闘を余儀なくされる「専守防衛」の自衛隊に少なくとも**数万人の「戦死者」**が出て、それに伴って**同数以上の国民が犠牲**となることを、一度たりとも心配してくれたことがあつたらうか、と。

この点を見ただけでも、反対派やメディアがいう「**リスクの増大**」や「**自衛官の戦死**」という言葉辞が、いかに**無責任で空疎なものであるか**、わかろうというものです。

反対派やメディアに聞きたいものです。あなた方は国際平和協力活動に自衛隊を派遣し、日本

の平和主義に即した活動をさせるための要素が多分に含まれている平和安全法制に反対し、国民の不安を煽る結果、そのことで自衛隊志願者が減れば、あなた方自身の安全を守るための災害派遣にも不十分なレベルになる恐れがあることを、一度たりとも考えたことがあるのでしょうか。これを、天にツバするような議論というのではないのでしょうか。了

尚、先月も同封致しましたが、来年2月13日土曜にシーガイアコンベンションセンターに於いて、「美しい日本の憲法をつくる宮崎県民の会」主催で、日本会議宮崎や産経新聞のご後援を仰ぎ、「櫻井よしこ氏特別講演会」を開催致します。

会場のキャパシティの都合上、1100名がマックスなので、何卒お早めにお申し込み下さい。

慌ただしい年の瀬を控え、何かと落ち着かぬ毎日かと存じますが、呉々もご自愛専一にお過ごしの上、ご家族お揃いで新しき年をお迎え頂ければ幸甚に存じます。

来年夏は18歳を加えた参議院選挙に引き続き、いよいよ憲法改正が俎上に乗るやも知れず、我々防衛協会青年部会としても、緊禪一番正念場を迎えます。

支部会員の皆様には宮崎支部の更なる結束と、より一層のお力添えをお願いして、年末のご挨拶と致します。

平成27年12月1日

宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部会員の皆様へ

宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部長 小倉和彦